

**医学教育分野別評価**  
**山梨大学医学部医学科**  
**年次報告書**  
**2022年度**

**評価受審年度 2018(平成30)年**



# 医学教育分野別評価 山梨大学医学部医学科 年次報告書 2022年度

医学教育分野別評価の受審2018（平成30）年度  
受審時の医学教育分野別評価基準日本版Ver. 2.2  
本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版Ver. 2.33

## はじめに

山梨大学医学部医学科は、2019年10月に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価の認証を取得して以来、医学部を挙げて継続的な医学教育の改善に取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症蔓延の影響により必ずしも計画通りに進捗していない事項もあるが、2021年4月1日～2022年3月31日の状況について報告する。

本学では2021年度の新入生から新たなカリキュラムを導入した。今後、新カリキュラムの詳細を検討しながら確実に年次進行させていくことが、「改善のための助言」「改善のための示唆」などに示された本学の医学教育における課題の解決に資すると期待される。

前年度に実施延期を余儀なくされた事項では、まず医学部独自のステークホルダー・ミーティングを開催した。Post-CC OSCEは、医療系大学間共用試験実施評価機構の特例措置により、正式実施することができた。臨床実習の見直しに向けた学内の調査も開始した。これらの結果を踏まえ、次年度も継続的な医学教育の改善活動を行う予定である。

一方、現在の医学部における教職員の業務は膨大であり、医学教育に割けるマンパワーに制約があることは否めない。これを補うために教員の教育能力向上に役立つ教育FDを実施するなどの取り組みが必要と認識している。社会が変貌し医療・医学におけるニーズが変化する中で、さらなるカリキュラムのブラッシュアップに努めるとともに、IRを活用するなどして入学者選抜方法についても検討していく予定である。

## 1. 使命と学修成果

領域1における「改善のための助言」および「改善のための示唆」を受けて、2021年度においては、医学部ステークホルダー・ミーティング、医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会などを通じて、本学の医学教育に関して広範な関係者に意見を求めた。これらを本学の医学教育にフィードバックする取り組みを継続していく予定である。

また、学生が本学医学部の使命、社会的責務を考える機会を増やし、ディプロマポリシーの周知にも努めた。教員がシラバスとディプロマポリシーとの関連性を明確に認識するよう、シラバスの書式を変更した。また、他大学の医学教育研修部門との定期交流を開始し、医学教育のさらなる改善に役立てることとした。

### 1.1 使命

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- なし

#### 改善のための助言

- 学生、教員、医療提供機関および医学研究機関の関係者へ使命をさらに周知徹底すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

従来開催されていた全学のステークホルダー・ミーティングに加えて医学部のステークホルダー・ミーティングを開催し、本学の医学教育の現状および使命を周知するとともに、さらなる改善のための助言を得た【資料1-1-B1】。また、昨年度に引き続き山梨県内高等学校長との意見交換会を実施し、令和3年度山梨大学医学部後援会総会においても、医学部の理念・目的および教育目標等を会員に示した【資料1-1-B2、1-1-B3】。

学生に対しては、前年度に引き続き新入生ガイダンスにおいて、医学部教育委員会委員長から医学部の使命、社会的責務に関連した内容を説明した。また、各学年の年度初めのガイダンスおよび臨床実習ガイダンスにおいても周知を図った。社会における本学医学部の使命に関連して、1年次後期の「社会の中の医療・医学」において、山梨県知事を含む学外の方々の講義と意見交換を実施した【資料1-1-B4】。

教員に対しては、コロナ禍での臨床実習の取り組みに関する教育FDを実施し、医学教育の使命について考える機会を設けた【資料1-1-B5】。

医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会において、本学卒業の初期臨床研修医を受け入れている医療機関に対して、本学の医学教育に関連したアンケートを実施した【資料1-1-B6】。

#### 改善状況を示す根拠資料

- 資料 1-1-B1 令和3年度医学部教育改革等に関するステークホルダー・ミーティング議事要録
- 資料 1-1-B2 山梨県内高校長との意見交換会議事要旨
- 資料 1-1-B3 令和3年度山梨大学医学部後援会総会議事概要（議事8 医学部の理念・目的及び教育目標等について）
- 資料 1-1-B4 2021「社会の中の医療・医学」講義予定
- 資料 1-1-B5 医学部附属病院教育FD研修会「東京医科歯科大学における重症コロナ感染症治療への取り組みとコロナ禍での臨床実習」（揭示文、ポスター）
- 資料 1-1-B6 令和2年度第2回山梨大学医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会議事要録（協議事項5 卒後臨床研修協力病院へのアンケートについて）、臨床研修病院アンケート結果

### **質的向上のための水準**

#### **特記すべき良い点（特色）**

- ・ なし

#### **改善のための示唆**

- ・ なし

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

1年次生の「教養総合講義」「社会の中の医療・医学」において、本学医学部の理念・目的に関連する医学研究や国際保健に関する授業を実施した【資料1-1-Q1、1-1-B4】。

#### **改善状況を示す根拠資料**

資料 1-1-Q1 2021「教養総合講義」講義予定

資料 1-1-B4 2021「社会の中の医療・医学」講義予定

### 1.3 学修成果

#### 基本的水準

医学教育分野別評価基準日本版の改訂があり、Ver. 2.33の内容は以下のとおりである。

医学部は、

- ・ 意図した学修成果を定めなければならない。それは、学生が卒業時までにはその達成を示すべきものである。それらの成果は、以下と関連しなくてはならない。
  - ・ 卒前教育で達成すべき基本的知識・技能・態度 (B 1.3.1)
  - ・ 将来にどの医学専門領域にも進むことができる適切な基本 (B 1.3.2)
  - ・ 保健医療機関での将来的な役割 (B 1.3.3)
  - ・ 卒後研修 (B 1.3.4)
  - ・ 生涯学習への意識と学修技能 (B 1.3.5)
  - ・ 地域医療からの要請、医療制度からの要請、そして社会的責任 (B 1.3.6)
- ・ 学生が学生同士、教員、医療従事者、患者、およびその家族を尊重し適切な行動をとることを確実に修得させなければならない。(B 1.3.7)
- ・ 学修成果を周知しなくてはならない。(B 1.3.8)

#### 特記すべき良い点 (特色)

- ・ なし

#### 改善のための助言

- ・ 学修成果を明確にしてシラバス等に明示すべきである。
- ・ 学修成果を学生、教員、職員、その他の教育の関係者に確実に周知すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

シラバスへのディプロマポリシー、到達目標の記載について、授業実習担当教員に徹底を呼びかけ、複数の科目において改善がみられたが大きな改善は見られなかった。そこで、2022年度からシラバスの書式を変更し、ディプロマポリシーとの関連性および評価方法を記載することを必須とした【資料1-3-B1】。また、シラバス作成依頼時にディプロマポリシーのリストを講義担当教員に配布した。今後はシラバスへの記載の徹底、教員への周知度の改善が期待される。

新入生・在学生に対しては各ガイダンスで資料を配布し、周知の徹底を図った。またその周知状況について、医学教育カリキュラム評価等実施委員会が主体となり、2021年度新入生、2年次生および4年次生を対象にアンケートを実施した【資料1-3-B2】。その結果、在学生における認知度が上昇するとともに、閲覧状況も改善していることが明らかになった。

今後も定期的に医学教育カリキュラム評価等実施委員会において、学修成果およびディプロマポリシーの理解度に関する調査を行いながら、周知の徹底を図る予定である。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料 1-3-B1 令和4年度電子シラバスの作成について (依頼)

資料 1-3-B2 学位授与方針に関するアンケート結果

#### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点 (特色)

- ・ なし

#### 改善のための示唆

- ・ 卒業時の学修成果と卒後研修終了時の学修成果を関連づけることが望まれる。

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

山梨県地域医療対策協議会、山梨県臨床研修病院等連携協議会、医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会など、本学の卒業生の状況について意見交換する場を設けている【資料1-3-Q1～1-3-Q3】。

医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会において、医学部のディプロマポリシーの到達度を含む学修成果についてのアンケートを本学卒業の初期臨床研修医を受け入れている医療機関を対象に実施した【資料1-1-B6】。その集計結果を臨床教育部管理委員会で検討した【資料1-3-Q4】。

臨床研修センターが卒後臨床研修医用オンライン臨床教育評価システム（EPOC2）未導入の県内の医療機関において導入するよう支援し、評価の共有化を進めている【資料1-3-Q5】。本学の臨床研修医は2年目に教育重点施設での研修を義務付けられていることから、各施設での研修実績・評価（他職種連携、評価を含む）を卒前教育にフィードバックできるようにした【資料1-3-Q6】。さらに、全国で約9割の初期臨床研修施設でEPOC2の導入が成されていることから、県外施設の卒業生に関してもEPOC2に基づいた研修評価の参照が可能か検討している【資料1-3-Q5】。

新型コロナウイルス感染症のため2020年度は見合わせたPost-CC OSCEを2021年度は特例実施で行った。2022年度においては通常実施で行う予定である。

これらで得られる情報をもとに今後卒業時の到達目標と卒後研修終了時の到達目標の関連性を再評価し、臨床実習内容の見直しを図っていく予定である。また、卒前教育の臨床実習と卒後研修の学修成果を連動させるため、卒前学生用オンライン臨床教育評価システム（CC-EPOC）の導入を継続審議している【資料1-3-Q7】。

## 改善状況を示す根拠資料

- 資料 1-3-Q1 山梨県地域医療対策協議会設置要綱
- 資料 1-3-Q2 山梨県臨床研修病院等連携協議会設置要綱
- 資料 1-3-Q3 山梨大学医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会規程
- 資料 1-1-B6 令和2年度第2回山梨大学医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会議事要録（協議事項5 卒後臨床研修協力病院へのアンケートについて）、臨床研修病院アンケート結果
- 資料 1-3-Q4 第42回臨床教育部管理委員会議事要旨（議題1 臨床研修協力病院アンケートについて）
- 資料 1-3-Q5 令和3年度第2回山梨大学医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会議事要録（協議事項8-1 研修の評価方法について）
- 資料 1-3-Q6 教育重点施設実習記録
- 資料 1-3-Q7 令和3年度第2回医学部教育委員会議事要録（審議事項8 CC-EPOCの申し込みにについて）

## 1.4 使命と成果策定への参画

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための助言

- ・ 使命と学修成果を改訂する際には、教員、職員、学生を含む教育に関わる主要な構成者が参画すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本学では、医学部長、医学科長が参加する医学部教育委員会、医学科医学カリキュラム委員会、医学教育カリキュラム評価等実施委員会を設置し、カリキュラムに関連する2つの委員会には医学部以外の教育の専門家および学生代表を委員に含めている【資料1-4-B1、1-4-B2】。

医学部ステークホルダー・ミーティングを開催し、本学医学部の使命についても意見交換することが可能である【資料1-1-B1】。

使命と目標とする学修成果の策定にはこれらの関係者が中心となって取り組むことができる。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料1-4-B1 2021 医学科医学カリキュラム委員会委員名簿

資料1-4-B2 2021 医学教育カリキュラム評価等実施委員会委員名簿

資料1-1-B1 令和3年度医学部教育改革等に関するステークホルダー・ミーティング議事要録

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための示唆

- ・ 教育目標および卒業時学修成果の策定には、他の医療職、地域医療の代表者など、より広い範囲の教育関係者の参加が望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

全学および医学部ステークホルダー・ミーティングを実施し、学外のステークホルダーとの意見交換を実施した【資料1-4-Q1、1-1-B1】。

医学部長、医学科長、医学部教育委員会委員長等と学生代表者による懇談会を実施した【資料1-4-Q2】。

信州大学医学教育研修センターと定期的に信州大学・山梨大学医学教育検討会を開催することとし、第1回を信州大学において実施した【資料1-4-Q3】。

医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会を実施し、県内外の病院代表者と意見交換した【資料1-4-Q4】。また昨年度に続き、卒業生の状況についてのアンケートへの協力依頼をした【資料1-4-Q5】。

医学部ステークホルダー・ミーティングおよび信州大学・山梨大学医学教育検討会などを継続的に実施し、今後の教育目標および卒業時学修成果の策定により広い範囲の教育関係者からの意見を反映できるようにする。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料1-4-Q1 令和3年度ステークホルダー・ミーティング議事録



- 資料 1-1-B1 令和 3 年度医学部教育改革等に関するステークホルダー・ミーティング議事要録
- 資料 1-4-Q2 令和 3 年度医学部長等と医学部学生会との懇談会議事要録
- 資料 1-4-Q3 第 1 回信州大学・山梨大学医学教育検討会開催案内
- 資料 1-4-Q4 令和 3 年度第 1 回山梨大学医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会議事要録  
(協議事項① 令和 3 年度医師臨床研修マッチング結果について)
- 資料 1-4-Q5 令和 3 年度第 2 回山梨大学医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会議事要録  
(協議事項 7 卒後臨床研修協力病院へのアンケート結果について)

## 2. 教育プログラム

2016年度入学生から適用のカリキュラムを年次進行により6年次生まで着実に実施した。また、2021年度入学生からさらに新しいカリキュラムを導入した。これらにより、行動科学教育の強化のみならず、数理データサイエンスや生命科学など現代社会や医療に関連する新科目を開講することができた。今後、新しいカリキュラムの年次進行に伴いさらに教育内容が充実させる予定である。

新型コロナウイルス感染症の蔓延下での臨床実習については、十分な感染予防策をとって継続することができた。しかし、臨床実習の内容については変更せざるを得ないところもあり、また低学年の学外実習については中止となった。

今後の医学教育カリキュラムに役立てるため、本学の卒業生に関する情報を得られるよう学外の関係者との意見交換に努めた。

### 2.1 教育プログラムの構成

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 学生の学修意欲を刺激するための反転授業等を導入していることは評価できる。

##### 改善のための助言

- ・ 2016年度入学以降の新カリキュラムを着実に遂行すべきである。
- ・ 一部の教科で実施されている反転授業等を拡充すべきである。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2016年度カリキュラムを6年次生まで着実に遂行した。1年次から4年次の講義に関しては、2020年度から培った遠隔授業の手法を取り入れたグループ学習を実施するなど、対面授業とオンライン授業を適宜組み合わせを行った。臨床実習においては、新型コロナウイルス感染症予防策をとって十分な臨床実習期間を確保した【資料2-1-B1、2-1-B2】。また、臨床実習終了後にPost-CC OSCEを実施し卒前評価に組み入れた。

2021年度カリキュラムからは新型コロナウイルス感染症等に対応できる医療人養成を目的とした感染制御学の科目を設置した。移行措置として2016年度カリキュラムの4年次生に対し集中講義および演習を実施した【資料2-1-B3】。

「アクティブラーニング」、「反転授業」および「PBL」に関する実施状況を前年度に引き続き調査した【資料2-1-B4】。全学教育FD研修会「大学教育における協同学習の理論と方法」において、LTD (Learning Through Discussion) 教育モデルを中心に協同教育の理論と方法についての教育FD研修会を行った。この中で他大学医学科での教育の実践例を取り上げた【資料2-1-B5】。また、医学部においてコロナ禍での臨床実習の取り組みに関する教育FDを実施した【資料1-1-B5】。

今後、テュートリアル（2021年度入学生からのカリキュラムでは統合臨床医学）のグループ学習において反転授業等を取り入れる予定である。また、アクティブラーニング等に関する調査結果を参考に、反転授業に関する教育FD研修会を開催するなどして教員の意識を高めて拡充を図る予定である。

##### 改善状況を示す根拠資料

- 資料 2-1-B1 第 42 回臨床教育部管理委員会議事要旨（議題 1 医学科 4 年次臨床実習(BCC)の予定について）
- 資料 2-1-B2 第 39 回臨床教育部管理委員会議事要旨（報告事項 5 ACC ローテーションについて）
- 資料 2-1-B3 2021 感染制御学集中講義日程表
- 資料 2-1-B4 2021 アクティブラーニング実施状況調査依頼、前期・後期調査結果
- 資料 2-1-B5 全学教育 FD 研修会「大学教育における協同学習の理論と方法」（揭示文）

資料 1-1-B5 医学部附属病院教育 FD 研修会「東京医科歯科大学における重症コロナ感染症治療への取り組みとコロナ禍での臨床実習」(掲示文、ポスター)

## 2.2 科学的方法

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 「リエゾンアカデミー研究医養成プログラム」を設定し、1年次から研究意欲の高い学生が積極的な研究活動を行っていることは高く評価できる。

#### 改善のための助言

- ・ 全学生に対して医学研究の手法を確実に教育すべきである。
- ・ 臨床現場におけるEBMの活用を推進すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2021年度入学生からのカリキュラムにおいて、1年次に数理データサイエンス教育を強化するための大学教育センターの専任教員による授業「データサイエンス入門」、バイオインフォマティクス等の研究手法の基礎を学ぶ新科目「実験医学・生命情報」を開講した【資料2-2-B1、2-2-B2】。

1年次の教養総合講義においてライフサイエンスコース（リエゾンアカデミー研究医養成プログラム）を取り上げた【資料1-1-Q1】。

2016年度カリキュラムの後半の臨床実習（Advanced Clinical Clerkship、以下ACC）期間において、基礎系講座での研究の機会を選択肢に加えた【資料2-2-B3】。

2022年度より、2年次にバイオインフォマティクスを体現できる「生命科学実習」を開講する予定である【資料2-2-B4】。医学研究の手法を学び、批判的思考を養うための論文読解を2年次後期の「神経科学」で導入予定である【資料2-2-B5】。

3年次の倫理学・プロフェッショナリズムおよび4年次の社会医学・行動科学において医学研究の手法を継続的に教育し、4年次から6年次の臨床実習においてはUpToDateの更なる活用を図る。

#### 改善状況を示す根拠資料

- 資料2-2-B1 2021 シラバス「データサイエンス入門」
- 資料2-2-B2 2021 シラバス「実験医学・生命情報」
- 資料1-1-Q1 2021「教養総合講義」講義予定
- 資料2-2-B3 ACC クール区分表
- 資料2-2-B4 2022 シラバス「生命科学実習」
- 資料2-2-B5 2022 シラバス「神経科学」

## 2.3 基礎医学

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための示唆

- ・ 現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを基礎医学のカリキュラムに反映させることが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2021年度入学生から新カリキュラムを導入し、将来の社会や医療システムに関連した「ヒトの体と病気」、バイオインフォマティクス等の研究手法を教育する「実験医学・生命情報」を開始した【資料2-3-Q1、2-2-B2】。さらに前者においては、講義のみならず、グループ討議、ロールプレイング、レポートで学修を深める機会を設けた【資料2-3-Q2】。

今後「生命科学実習」において継続して学修を深めていく予定である【資料2-2-B4】。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料2-3-Q1 2021 シラバス「ヒトの体と病気」

資料2-2-B2 2021 シラバス「実験医学・生命情報」

資料2-3-Q2 2021 「ヒトの体と病気」ロールプレイング課題資料

資料2-2-B4 2022 シラバス「生命科学実習」

## 2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための助言

- ・ 新カリキュラムで計画されている体系的な行動科学教育を着実に実践すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2016年度カリキュラムで計画した体系的な行動科学教育を行った。講義にあたっては、毎回40分の講義、10分の小テスト、それに基づく、Think-Pair-Shareと発表を行った【資料2-4-B1、2-4-B2】。コロナ禍でも感染症対策を行って対面での講義と課題演習を行った。

また、6年次の社会医学実習は感染症対策を十分に行って、診療所実習、疫学演習、新型コロナ実習、福島県立医大による遠隔での放射線医学実習、南三陸での被災地実習を行うことができた【資料2-4-B3】。

2022年度からは脳科学領域および心理学領域については学内の専門家による講義を導入し、充実を図ることとした。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料 2-4-B1 2021 シラバス「行動科学」

資料 2-4-B2 2021 行動科学講義計画

資料 2-4-B3 令和3年度第2回医学部教育委員会議事要録（報告事項5 令和3年度社会医学実習の実施について）

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための示唆

- ・ 現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを行動科学等の新カリキュラムに反映させることが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

行動科学は2016年度カリキュラムで15コマの講義時間で体系的に実施した。一方で、他の科目との連携は社会環境医学での予防行動に関する項目に限られていた【資料2-4-B1、2-4-B2】。

さらに水平連携を図ることとし、2021年度入学生から適用されるカリキュラムから実施することとした。社会環境医学のみならず、脳神経科学系の講義および精神科学との水平連携を計画する予定である。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料 2-4-B1 2021 シラバス「行動科学」

資料 2-4-B2 2021 行動科学講義計画

## 2.5 臨床医学と技能

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 一部の内科系診療科で、学生が研修医と同様に患者を受け持って診療参加型臨床実習を行っていることは高く評価できる。

#### 改善のための助言

- ・ 臨床現場において、計画的に患者と接する教育プログラムを教育期間中に十分持つべきである。
- ・ 重要な診療科で学修する時間を十分に定めるべきである。
- ・ 診療参加型臨床実習をさらに推進すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2021年度も新型コロナウイルス感染症のため早期臨床体験実習（ECE）、低学年の附属病院体験実習、救急用自動車同乗実習は実施できなかった【資料2-5-B1】。2022年度は新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しながら、1年次の早期臨床体験実習（ECE）等を実施する予定である。

重要な診療科で学修する時間等については、臨床実習検討委員会で協議する予定である。

臨床実習は新型コロナウイルス感染症の予防対策をとって可能な範囲で対面にて実施した。また感染拡大状況に対応し、随時臨床実習に関する規定を改訂した【資料2-5-B2】。今後、診療参加型臨床実習の充実に向けて臨床実習センター運営委員会が中心となって実習内容の見直しを行っていく。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料 2-5-B1 令和3年度第4回医学部教育委員会議事録（報告事項4 ECE実習の中止について）、救急用自動車同乗実習中止揭示文

資料 2-5-B2 臨床実習についての心得・感染拡大防止のための取り決め（1 臨床実習の中止、再開について）

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための示唆

- ・ 全ての学生が早期から患者と接触する機会を持ち、徐々に実際の患者診療への参画を深めていくことが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

1年次の早期臨床体験実習（ECE）、1年次から3年次に各診療科に配属される附属病院体験実習、3年次の救急用自動車同乗実習を予定したが、新型コロナウイルス感染症のため実施を見合わせた【資料2-5-B1】。2022年度は新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しながら実施する予定である。

また、2021年度入学生から適用されたカリキュラムで計画されていた低学年生の附属病院での実習も検討していく予定である。

2021年度も臨床実習は新型コロナウイルス感染症の予防対策をとって可能な範囲で対面にて実施した【資料2-5-B2】。診療参加型臨床実習に向けて前述のとおり見直しを進めていく予定である。

2021年度カリキュラムにおいては、臨床実習期間中に「臨床医学研究」を実施する予定であり、医学の進歩や将来の医療において必要なことを学べるよう今後医学科医学カリキュラム委員会等で

内容を検討していく。

**改善状況を示す根拠資料**

- 資料 2-5-B1 令和3年度第4回医学部教育委員会議事録（報告事項4 ECE 実習の中止について）、救急用自動車同乗実習中止掲示文
- 資料 2-5-B2 臨床実習についての心得・感染拡大防止のための取り決め（1 臨床実習の中止、再開について）



## 2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 神経科学の教育では、解剖学・生理学・生化学・薬理学などの水平的統合が行われている。

#### 改善のための示唆

- ・ 関連する科学・学問領域および課題の水平的統合をさらに推進することが望まれる。
- ・ 基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的（連続的）統合をさらに推進することが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

水平統合については、神経科学では既になされている。また、社会医学系の科目である社会環境医学、地域医療学、救急用自動車同乗実習、行動科学においてもコア・カリキュラムの整理と分担を確認してシラバスを作成している【資料2-6-Q1、2-6-Q2、2-4-B1】。

4年次において、臓器別のチュートリアル教育で不十分となりやすい臨床推論の講義を追加した。

2021年度カリキュラムより1年次前期に開講した「ヒトの体と病気」では、各臓器の基礎から臨床までの課題について学生に考えさせることにより、早期に垂直的統合の重要性に気づく機会を提供した【資料2-3-Q1】。

また、垂直的（連続的）統合については、チュートリアル教育においても一部実施しているが、各コースの授業組み立てをコースディレクターに一任して症例をもとに基礎から臨床、社会的課題まで一貫した学習ができるように更なる見直しを図る予定である【資料2-6-Q3】。

2021年度カリキュラムの年次進行にあわせて、総合診療、チュートリアル（2021年度入学生からのカリキュラムでは統合臨床医学）教育などにおける水平のおよび垂直的統合について、医学科医学カリキュラム委員会、チュートリアル委員会、臨床実習センター運営委員会等において検討を行う。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料 2-6-Q1 2021 シラバス「社会環境医学」

資料 2-6-Q2 2021 シラバス「地域医療学」

資料 2-4-B1 2021 シラバス「行動科学」

資料 2-3-Q1 2021 シラバス「ヒトの体と病気」

資料 2-6-Q3 2021 チュートリアルの講義予定表（コース1）

## 2.7 教育プログラム管理

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための示唆

- ・ 医学科医学カリキュラム委員会に教員と学生以外の教育の関係者の代表を含むことが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学科医学カリキュラム委員会では医学部以外の教育の専門家として新たに大学教育センターの教員を委員としている【資料 1-4-B1】。さらに、医学部ステークホルダー・ミーティングを定期的  
に開催することとしたことから、その様々な意見を今後のカリキュラムの修正に反映させていく  
予定である【資料 1-1-B1】。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料 1-4-B1 2021 医学科医学カリキュラム委員会委員名簿

資料 1-1-B1 令和 3 年度医学部教育改革等に関するステークホルダー・ミーティング議事要録

## 2.8 臨床実践と医療制度の連携

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための示唆

- ・ 山梨県内だけでなく、県外の病院等からも卒業生の情報を得て教育プログラムの改良に役立てることが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

卒前教育担当の臨床実習センター運営委員会と卒後初期臨床研修担当の臨床研修センター運営委員会には相互に委員が参加しており、連携をとる体制が整っている【資料 2-8-Q1、2-8-Q2】。

山梨県地域医療対策協議会、山梨県臨床研修病院等連携協議会、医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会など、本学の卒業生の状況について意見交換する場を設けている【資料1-3-Q1～1-3-Q3】。

医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会において、医学部のディプロマポリシーの到達度を含む学修成果についてのアンケートを本学卒業の初期臨床研修医を受け入れている県内外の医療機関を対象に実施した【資料1-1-B6】。その集計結果を臨床教育部管理委員会で検討した【資料1-3-Q4】。

今後、山梨医科大学・山梨大学医学部同窓会などを通して本学卒業生に関する情報を収集することを検討していく。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料 2-8-Q1 医学部附属病院臨床教育部臨床実習センター運営委員会委員名簿

資料 2-8-Q2 医学部附属病院臨床教育部臨床研修センター運営委員会委員名簿

資料 1-3-Q1 山梨県地域医療対策協議会設置要綱

資料 1-3-Q2 山梨県臨床研修病院等連携協議会設置要綱

資料 1-3-Q3 山梨大学医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会規程

資料 1-1-B6 令和2年度第2回山梨大学医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会議事要録（協議事項5 卒後臨床研修協力病院へのアンケートについて）、臨床研修病院アンケート結果

資料 1-3-Q4 第42回臨床教育部管理委員会議事要旨（議題1 臨床研修協力病院アンケートについて）

### 3. 学生の評価

本学における総括評価の方針を教員に再周知し、シラバスの改善などにより評価方法の見直しを図った。臨床実習においては、継続的にe-ポートフォリオ上の評価表を用いて知識、技能および態度を統合的に評価した。Post-CC OSCEを正式実施した。また、本学卒業生の初期臨床研修を受け入れている病院にアンケート調査を実施した。これらで得られた評価について今後の臨床教育にフィードバックしていく予定である。

学生の評価法を含む医学教育全般についての助言を得られるよう、他大学の医学教育研修部門との定期交流を開始した。低学年時からの試験や評価のあり方については、医学教育カリキュラム評価等実施委員会の活動や教育FDの実施などにより、さらに検討して行く予定である。

#### 3.1 評価方法

##### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- なし

##### 改善のための助言

- 知識だけでなく、技能および態度を確実に評価すべきである。
- 臨床実習の現場において知識、技能および態度を統合的に評価し、時機を得たフィードバックを実施すべきである。
- 評価方法や形式を、それぞれの評価有用性に合わせて活用すべきである。
- 評価を外部の専門家によって精密に吟味すべきである。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

新型コロナウイルス感染症対策をとったうえで臨床実習を継続し、臨床実習評価表を用いて技能および態度についても継続的に評価した。

前年度実施できなかったPost-CC OSCEを正式実施し、外部評価者より助言を得た。

臨床実習において各診療科で学修すべき基本技能の見直しを開始し、今後評価法の改善にも役立てる予定である【資料3-1-B1】。

2021年度末に開催した医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会において、本学の卒業生のディプロマポリシー到達度（知識・技能・態度を含む）に関するアンケート結果の説明を行い、継続的なアンケート調査への協力依頼をした【資料1-4-Q5】。

信州大学において第1回信州大学・山梨大学医学教育検討会を実施、評価方法等について意見交換した【資料1-4-Q3】。

テュートリアル（2021年度入学生からのカリキュラムでは統合臨床医学）のグループにおいて小テストを実施するなど、形成評価の導入を進めていく予定である。

##### 改善状況を示す根拠資料

資料 3-1-B1 第44回臨床教育部管理員会議事要旨（議題1 基本37症候の経験状況結果と今後の対応について）

資料 1-4-Q5 令和3年度第2回山梨大学医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会議事要録（協議事項7 卒後臨床研修協力病院へのアンケート結果について）

資料 1-4-Q3 第1回信州大学・山梨大学医学教育検討会開催案内

##### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- なし

### 改善のための示唆

- ・ 評価方法の信頼性と妥当性を検証することが望まれる。
- ・ 外部評価者を含めて評価方法を検討することが望まれる。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教学担当理事から本学の総括評価の方針についての説明文書を配布し、教員に評価方法の見直しを呼びかけ、シラバスに反映させた【資料3-1-Q1】。

信州大学において第1回信州大学・山梨大学医学教育検討会を実施、評価方法等について意見交換した【資料1-4-Q3】。

2021年度に医学教育カリキュラム評価等実施委員会において評価方法の信頼性と妥当性を検証する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響が継続したため、「学生の評価方法に関するWG」の設置はできなかった。なお、医学教育カリキュラム評価等実施委員会に大学教育センターの教育の専門家を加わっているため、今後評価方法についての検討を進める予定である【資料1-4-B2】。

### 改善状況を示す根拠資料

- 資料 3-1-Q1 令和3年度第9回医学部教育委員会資料（報告事項6 学生の成績評価（総括評価（試験等））について）
- 資料 1-4-Q3 第1回信州大学・山梨大学医学教育検討会開催案内
- 資料 1-4-B2 2021年度医学教育カリキュラム評価等委員会委員名簿

## 3.2 評価と学修との関連

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための助言

- ・ 学修成果の達成度を確実に測ることができる評価を導入すべきである。
- ・ 学修を促す形成的評価に役立つようにe-ポートフォリオの内容を検討し、運用すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教学担当理事から本学の総括評価の方針についての説明文書を配布し、教員に評価方法の見直しを呼びかけ、シラバスに反映させた【資料3-1-Q1】。

e-ポートフォリオ内の臨床実習評価表「ルーブリック」の一部見直しを行った【資料3-2-B1】。

低学年次からの試験・評価のあり方については「学生の評価方法に関するWG」を設置する予定であったが、2021年度も新型コロナウイルス感染拡大への対応を優先したため、設置できなかった。今後、検討体制の整備を進める予定である。

医学部教育委員会において卒前教育の臨床実習と卒後研修の学修成果を連動させるため、新たなオンライン臨床教育評価システム（CC-EPOC）の導入を検討し、次年度へ継続審議となった【資料1-3-Q7】。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料 3-1-Q1 令和3年度第9回医学部教育委員会資料（報告事項6 学生の成績評価（総括評価（試験等））について）

資料 3-2-B1 第31回臨床実習センター運営委員会議事要録（協議事項1 BCC評価表「総合評価の指標」の変更について）

資料 1-3-Q7 令和3年度第2回医学部教育委員会議事録（審議事項8 CC-EPOCの申し込みにについて）

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための示唆

- ・ 試験の回数や方法を、医学科全体で協議し適切に定めることが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教学担当理事から本学の総括評価の方針についての説明文書を配布し、教員に評価方法の見直しを呼びかけ、シラバスに反映させた【資料3-1-Q1】。

テュートリアル（2021年度入学生からのカリキュラムでは統合臨床医学）のグループにおいて小テストを実施するなど、形成評価の導入を進めていく予定である。

低学年次からの試験・評価のあり方については「学生の評価方法に関するWG」を設置する予定であったが、2021年度も新型コロナウイルス感染拡大への対応を優先したため、設置できなかった。今後、検討体制の整備を進める予定である。

全学教育FD研修会「COVID-19 緊急対策の総括と With/After コロナ時代の大学教育の在り方」にて、With/Afterコロナ時代大学教育の課題について情報共有の機会が設定され、学習成果の可視化や内部質保証システムに関しての情報提供があった【資料3-2-Q1】。

新型コロナウイルス感染症への対応のため、2021年度には試験の回数や方法に関する項目など詳細については検討できず、今後検討の場として教育FD研修会を必要に応じて設定していく。

#### **改善状況を示す根拠資料**

資料 3-1-Q1 令和3年度第9回医学部教育委員会資料（報告事項6 学生の成績評価（総括評価（試験等））について）

資料 3-2-Q1 全学教育FD研修会「コロナ時代の大学教育の在り方」（掲示文）

## 4. 学生

学内において医学部入学者選抜方法検討委員会を開催するとともに、山梨県と意見交換を実施するなど、地域と連携した入学者選抜の実践に努めた。

新たに修学指導委員会を設置するなどして、学生の支援体制を強化した。また、新型コロナウイルス感染症による学生の影響を最小限とするような様々な支援策を講じた。

新たに開催した医学部ステークホルダー・ミーティングにおいても学生代表が参加できるようにした。

### 4.1 入学方針と入学選抜

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 地域と連携をはかり、山梨県の医療を支える人材を選抜している。

##### 改善のための助言

- ・ 地域枠の選抜については今後国の方針を注視すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学部入学者選抜方法検討委員会を定期的の実施し、入試の動向に関する検討を行っている【資料4-1-B1】。

本学の特色として評価されている地域との連携について山梨県と本学で意見交換会を行い、今後も地域社会のニーズに合った医療人材育成を継続的に図ることとした。令和5年度以降の臨時定員増については、現時点では文部科学省および厚生労働省の方針が決定していないが、仮に臨時定員増が廃止された場合でも、当面学校推薦型選抜Ⅱ（地域枠）入学定員35名を維持していくことなどを確認した【資料4-1-B2】。

また、山梨県内高等学校長との意見交換会を継続し、学校推薦型選抜Ⅱ（地域枠）のあり方について意見交換を行った【資料1-1-B2】。

地域枠入学の5年次生に対し教員が山梨県職員とともに個人面談を実施し、進路相談とともに地域枠入試についての学生との意見交換を実施した【資料4-1-B3】。

令和4年度医学部医学科入学定員については、臨時定員増20名を含む125名とする医学部収容定員変更関係設置計画を文部科学省に提出し、認められた【資料4-1-B4】。

今後も国の方針を注視し、山梨県や県内の高等学校長との連携を密に取ることで地域の状況を反映した入学者選抜を実施していく予定である。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料 4-1-B1 令和3年度医学部入学者選抜方法等検討委員会議事録（第1回、第2回）

資料 4-1-B2 地域枠に関する山梨県と山梨大学との打ち合わせ要旨（打合せ内容(1)山梨大学医学部医学科の地域枠定員について）

資料 1-1-B2 山梨県内高校長との意見交換会議事要旨

資料 4-1-B3 山梨県医師修学資金被貸与生5年次面談にかかる事前アンケートについて

資料 4-1-B4 医学部の収容定員の増加について（通知）



### 4.3 学生のカウンセリングと支援

#### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための助言

- ・ スモールクラスなどの活用により学修上の支援をさらに充実すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症のため、スモールクラス担任による新入生の面談は困難な状況であったが、オンライン利用などにより実施し、学修上の問題点の把握に努めた【資料4-3-B1】。

教育委員会のもとに修学指導委員会を設置し、面談が必要な学生には個別に面談するなど学修上の支援を強化した。また甲府キャンパスに設置された学生サポートセンター、医学部保健管理センターとの連携を図るため、修学指導委員会の委員を増やすこととした。

経済的に困窮している学生への支援については、各種奨学金制度に加えて、教職員用宿舎の貸与や附属病院の災害用備蓄食料の配付などを実施した。今後も継続的な支援を実施していく予定である。

心の問題を抱えている学生等からのSOSをどう受け止め、支援につなげていくかについて、教職員を対象とした医学域教育FD研修会を開催し、対応方法などを共有した【資料4-3-B2】。

アンプロフェッショナルな学生の指導記録共有システムがあるが、十分に活用されていないので、教員に周知する。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料 4-3-B1 スモールクラス指導教員による学生面談の報告について（依頼）

資料 4-3-B2 医学域教育 FD 研修会「こころのSOSをどう受け止めるか」（実施要項、掲示文）

#### 4.4 学生の参加

##### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

##### 改善のための助言

- ・ 使命の策定や医学部キャンパス学生委員会に学生の代表が参加し、適切に議論に加わるべきである。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学部ステークホルダー・ミーティングを開催し、学生の代表も参加した。今後医学部の使命の策定を行う場合に多様な意見を反映できるよう体制を整えた【資料1-1-B1】。

医学部長、医学科長、医学部教育委員会委員長等と学生代表者による懇談会を実施した【資料1-4-Q2】。

医学部キャンパス学生委員会の委員に学生代表を追加した【資料4-4-B1】。

##### 改善状況を示す根拠資料

資料 1-1-B1 令和3年度医学部教育改革等に関するステークホルダー・ミーティング議事要録

資料 1-4-Q2 令和3年度医学部長等と医学部学生会との懇談会議事要録

資料 4-4-B1 第111回医学部キャンパス学生委員会議事要録

## 5. 教員

領域5における「改善のための助言」を受け、非常勤医師の雇用条件を変更し、若手教員の働き方、就労環境に配慮した取り組みを行った。

教育FDを継続的に実施したが、さらなる教員の能力向上のために、参加者を増やす方策などを検討していく予定である。

### 5.1 募集と選抜方針

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 教員の活動をモニタするために、「教育研究活動データベースシステム」を構築していることは評価できる。
- ・ 病院の業務に加えて臨床教育の業務を担当する臨床助教を任命して臨床教育の充実を図っていることは評価できる。

##### 改善のための助言

- ・ 教員の男女間のバランスを配慮すべきである。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教員を公募する際、公募要領に追加情報を公表することにより、女性研究者が応募しやすい環境の取り組みを行い、教員の男女間のバランスに配慮した取り組みを継続的に実施している【資料5-1-B1】。

若手教員が安心して仕事と育児を両立できるよう、原則週4日以上勤務することを雇用の条件としていた非常勤医師について、週1日でも勤務できるよう規程を改正した【資料5-1-B2】。

臨床系講座および附属病院において、教員全体に対する女性教員の割合に増加傾向がみられている【資料5-1-B3】。

引き続き、医学部運営会議などにおいて、教員の働き方改革、ワークライフバランスについても検討し、女性教員がより働きやすい環境となるよう継続的に取り組む。

##### 改善状況を示す根拠資料

資料5-1-B1 呼吸器内科学教室教授公募（ホームページ）

資料5-1-B2 山梨大学医学部附属病院医員取扱規程（第4条第2項）

資料5-1-B3 教員数

## 5.2 教員の活動と能力開発

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための助言

- ・ 個々の教員がカリキュラム全体を十分に理解した上で教育を担当すべきである。
- ・ 教育技法や学生の評価に関わる教育FD研修会をさらに充実し、参加者を増やすべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2021年度には全学教育FD研修会を4回、医学部キャンパス教育FD研修会を2回開催した。全学教育FD研修会「令和2年度優秀教育賞受賞記念講演」では、優秀教育賞を受賞した教員によるWith/Afterコロナ時代の大学における安全かつ効率的で質を維持した実験・実習科目の運営に関する「ハイブリッド授業による実験・実習科目実施を実現した取り組み」の講演が行われた【資料5-2-B1】。

オンラインによる教育FD研修会を行うなど、多数の教員が参加できるよう開催方法について検討する。また教員新採用時の教育FD実施について検討する。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料 5-2-B1 全学教育 FD 研修会「令和 2 年度優秀教育賞受賞記念講演」（揭示文）

## 6. 教育資源

学生保険への加入を徹底する取り組みを継続して実施した。新型コロナウイルス感染症を含む必要なワクチン接種を速やかに受けられるように配慮し、新型コロナウイルス感染症のPCR検査を無料で受けられる仕組みを設けるなど、感染予防体制を強化した。

臨床実習を充実させるために、学内において臨床研修センターと連携するとともに、学外の実習施設とも意見交換を実施した。また、教育の専門家の意見を積極的に取り入れるために、他大学との教員間の交流を進めた。国際交流については、今年度も新型コロナウイルス感染症のため新たな展開には至らなかった。2022年度からは徐々に再開する予定である。

### 6.1 施設・設備

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための助言

- ・ 学生保険未加入者への確実な加入を促す個別の対策を講じるべきである。
- ・ 安全な学修環境を確保するために予防接種を着実に行うべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

新入学生については、学務関係手続時に学生保険加入の確認をし、未加入者には加入の個別指導を行った。休学・留年者に対しても保険期間の期限切れの確認を行うよう指導している。また、臨床実習開始前に保険証券の写し等で加入状況を確認している。

ワクチン接種については、入学時の健康診断時に実施する抗体検査（麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎）の結果を確認し、接種が必要な学生に対してワクチン接種を確実に実施するよう指導しており、希望者には医学部キャンパス保健管理センターにおいて接種を行っている【資料6-1-B1】。

病院実習対象学年の学生に対し、大学負担によりインフルエンザワクチンを接種している。また、新型コロナワクチン接種は任意であるが、医療従事者に準じた優先接種枠を設け、大多数の学生が本学附属病院において接種している【資料6-1-B2】。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料 6-1-B1 ワクチン接種案内（新入学生対象）

資料 6-1-B2 インフルエンザワクチン接種案内、新型コロナワクチン接種通知（CNS 掲示文）

## 6.2 臨床実習の資源

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための助言

- ・ 学生が経験すべき患者数と疾患分類を定義し、バランスを考慮して十分に確保すべきである。
- ・ 臨床実習を充実させるために学外実習施設の拡充と、その指導者の能力開発を行うべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

臨床教育部管理委員会において基本37症候の経験状況結果と今後の対応について検討し、各臨床科が実習で経験できる症候を提示して、学生が適切に臨床経験を積むために参照するロードマップを明示することとした【資料3-1-B1】。また、臨床実習の実態調査結果と今後の対応を審議した。学生が経験する患者数についても今後調査を進め、適切な症例数が確保できるよう検討していく。

総合診療実習病院連絡会を開催し、学外実習施設での臨床実習の実施状況や要望について意見交換した【資料6-2-B1】。

2021年度には実施できなかった学外実習先の指導医に教育FD研修会への参加を求めるなど、指導体制の強化に努めていく予定である。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料 3-1-B1 第44回臨床教育部管理委員会議事要旨（議題1 基本37症候の経験状況結果と今後の対応について）

資料 6-2-B1 総合診療実習病院連絡会について

## 6.5 教育専門家

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための助言

- ・ カリキュラム開発、指導および評価方法の開発を協働して行うために、学内外の教育専門家の活用をさらに推進すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学科医学カリキュラム委員会、医学教育カリキュラム評価等実施委員会に大学教育センターの教育専門家を加えた体制とした【資料1-4-B1、1-4-B2】。今後新たなカリキュラムを開発する際には教育専門家の意見を反映する予定である。

信州大学において第1回信州大学・山梨大学医学教育検討会を実施し、評価方法等について意見交換した【資料1-4-Q3】。この検討会は継続して実施していく予定である。

また、医療系大学間共用試験実施評価機構のOSCEセンター検討ワーキンググループの視察を受け、OSCEの実施状況やシミュレーションセンターの活用について協議した【資料6-5-B1】。

全学教育FD研修会「大学教育における協同学習の理論と方法」にて、学外の専門家を講師として、協同教育の理論と方法についての教育FD研修会を行った【資料2-1-B5】。

#### 改善状況を示す根拠資料

- 資料 1-4-B1 2021 年度医学科医学カリキュラム委員会名簿
- 資料 1-4-B2 2021 年度医学教育カリキュラム評価等委員会委員名簿
- 資料 1-4-Q3 第 1 回信州大学・山梨大学医学教育検討会開催案内
- 資料 6-5-B1 山梨大学 OSCE 実施方法等視察日程表
- 資料 2-1-B5 全学教育 FD 研修会「大学教育における協同学習の理論と方法」（揭示文）

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための示唆

- ・ 新カリキュラム導入と臨床実習拡充に備えるために、教育FD研修会をさらに活発に開催することが望まれる。
- ・ 教職員が教育的な研究を遂行することが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

全学教育FD研修会「大学教育における協同学習の理論と方法」にて、学外の専門家を講師として、協同教育の理論と方法について教育FD研修会を行った【資料2-1-B5】。

また、全学教育FD研修会（数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム 2021 年度関東・首都圏ブロック第7回ワークショップ）「～山梨大学における数理・データサイエンス教育への取り組み～」を開催した【資料6-5-Q1】。近年の社会的要求に応じて、全学必修化した数理・データサイエンス・AI教育について情報共有し、学内外の最新の情報を提供した。

医学部においては、コロナ禍での臨床実習の取り組みに関する教育FDを実施した【資料1-1-B5】。さらに大学生のメンタルヘルスについて医学域FD研修会「こころのSOSをどう受け止めるか」を実施した【資料4-3-B2】。

本学小児科学講座におけるコロナ禍での完全オンライン実習と病院実習の内容と評価を比較検討する研究を行い論文発表した【資料6-5-Q2】。新型コロナウイルス感染症対応に教職員のマンパワーが割かれている状況であるが、今後さらに教職員の教育的な研究を実施していく予定である。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- 資料 2-1-B5 全学教育 FD 研修会「大学教育における協同学習の理論と方法」(掲示文)
- 資料 6-5-Q1 全学教育 FD 研修会「山梨大学における数理・データサイエンス教育への取り組み」(掲示文、ポスター)
- 資料 1-1-B5 医学部附属病院教育 FD 研修会「東京医科歯科大学における重症コロナ感染症治療への取り組みとコロナ禍での臨床実習」(掲示文、ポスター)
- 資料 4-3-B2 医学域教育 FD 研修会「こころの SOS をどう受け止めるか」(実施要項、掲示文)
- 資料 6-5-Q2 論文「COVID-19 流行下における完全オンラインによる小児科臨床実習の実施と評価」



## 6.6 教育の交流

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 留学生を指導する教職員向けに支援体制を周知させるためのガイドブック「留学生の指導教員のためのガイド」を用意していることは評価できる

#### 改善のための示唆

- ・ 国内外の交流をさらに活性化することが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、本学の学生の海外留学および海外からの短期研修生の受け入れ、協定校間の交流はできなかった。2022年度からは国際交流の再開することとした【資料6-6-Q1】。

2021年度は普及したオンラインシステムを活用し、国際交流を試みた。ノーザンアイオワ大学とレスター大学の夏季オンラインプログラムを医学科学生7名が受講した【資料6-6-Q2】。

医学部附属病院と中国の内蒙古医科大学附属医院によるオンライン国際交流会を開催した【資料6-6-Q3】。

2022年度1年次生の教養総合講義「異文化理解」において、本学に在学している留学生と医学部学生が交流する機会をもつ予定である【資料6-6-Q4】。

#### 改善状況を示す根拠資料

- 資料 6-6-Q1 令和3年度第8回医学部教育委員会議事録（審議事項6 次年度からの学科学生の国際交流について）
- 資料 6-6-Q2 夏季オンラインプログラム募集要項（ノーザンアイオワ大学、レスター大学）
- 資料 6-6-Q3 オンライン国際交流会開催記事
- 資料 6-6-Q4 2022「教養総合講義」講義予定、「異文化理解」講義資料

## 7. 教育プログラム評価

領域7における「改善のための助言」および「改善のための示唆」を受け、医学科医学カリキュラム委員会において、医学教育モデル・コア・カリキュラムの新たな領域における修得状況を調査し、関連する委員会等にフィードバックを行った。前年度の活動により、学生の理解度に改善が見られた事項もあるが、臨床実習に係る項目については今後臨床実習センターが中心となって改善していく予定である。カリキュラムとディプロマポリシーの関連性についての評価は今後の課題である。

卒業生の実績について、医学部附属病院医師卒後研修管理委員会を通して情報収集を開始した。また、医学部ステークホルダー・ミーティングを開催した。これらを継続することで、得られた情報を今後のカリキュラムの改善に役立てていく予定である。教学IRについては、継続的なモニタリングができることが望ましく、引き続き対応策を検討する。

### 7.1 教育プログラムのモニタと評価

#### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- なし

#### 改善のための助言

- ・ 教学 IR を活用して、カリキュラムの教育課程と学修成果を定期的にモニタするプログラムを設けるべきである。
- ・ カリキュラムとその主な構成要素と学生の進歩を評価し、課題を特定して対応する仕組みを確立すべきである。
- ・ 評価の結果をカリキュラムに確実に反映すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラムおよび学生の到達度については、カリキュラム評価等実施委員会において定期的に評価する仕組みが確立されている【資料7-1-B1～7-1-B6】。その結果については、医学科医学カリキュラム委員会、附属病院臨床実習センター運営委員会、同臨床教育部管理委員会などに提言として伝達される【資料7-1-B7、7-1-B8】。今年度においては、2021年度入学生から適用された新しいカリキュラムが開始されたばかりなので、医学科医学カリキュラム委員会の活動は限られていたが、カリキュラム評価等実施委員会においては継続的な取り組みを行った。

教学IRをさらに充実させるべく委員を増員し、体制を強化することとした【資料7-1-B9】。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料 7-1-B1 4年次生コア・カリキュラム修得状況調査（B項目）理解度の推移

資料 7-1-B2 4年次生コア・カリキュラム修得状況調査（C-5項目）

資料 7-1-B3 2年次生コア・カリキュラム修得状況調査（C-1-4項目）

資料 7-1-B4 5・6年次生コア・カリキュラム修得状況調査（F-1項目）

資料 7-1-B5 1年次生準備教育モデル・コア・カリキュラム修得状況調査集計結果

資料 7-1-B6 2年次生準備教育モデル・コア・カリキュラム修得状況調査集計結果

資料 7-1-B7 医学教育モデル・コア・カリキュラム修得状況調査に基づく提言

資料 7-1-B8 準備教育モデル・コア・カリキュラム修得状況調査に基づく提言

資料 7-1-B9 大学教育センター教学 IR 部門打ち合わせ（医学部）議事要録（審議事項1 次年度以降の体制について）

## 質的向上のための水準

### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

### 改善のための示唆

- ・ 教育活動とそれが置かれた状況、カリキュラムの特定の構成要素、長時間で獲得される学修成果、社会的責任について定期的に、プログラムを包括的に評価することが望まれる。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育カリキュラム評価等実施委員会が主体となって、医学教育モデル・コア・カリキュラム修得状況調査を実施した。本年は昨年度に引き続き、4年次生を対象にB項目（社会と医学・医療）の修得状況を調査した。医学科医学カリキュラム委員会と講義担当教員にフィードバックした効果もあって、多くの項目で理解度の改善が認められた【資料7-1-B1】。

新たに4年次生においてC-5項目（人の行動と心理）について修得状況の調査を行った。これらについては全般に良好な修得状況であった【資料7-1-B2】。さらに、2年次生を対象としてC-1項目～C-4項目について修得状況の調査を行った【資料7-1-B3】。

また、新たに臨床実習センターと医学教育カリキュラム評価等実施委員会が連携し、5・6年次生を対象として医学教育モデル・コア・カリキュラムF-1項目（症候・病態からのアプローチ）の経験状況について調査を行った【資料7-1-B4】。結果は臨床実習センター運営委員会、上部組織である臨床教育部管理委員会において検討した。各臨床科が実習で経験できる基本症候を提示して、学生が適切な臨床経験を積むために参照するロードマップを明示していく。また、各診療科の到達目標・教育方略・評価の見直し、Pre-CC OSCE、Post-CC OSCEとの整合性の確立、臨床実習と初期臨床研修のシームレス化を目指していく。

入学者における理科の履修科目が異なることから、基礎医学科目の準備教育が基礎教育科目で十分にカバーできているかどうか調査した。新入生と2年次生（準備教育終了後）を対象に、以前に用いられた準備教育モデル・コア・カリキュラムに基づいて実施した【資料7-1-B5、7-1-B6】。入学時に理解度の低かったほとんどの項目で、準備教育終了後には理解度が大幅に上昇していた。ただし、半数以上の学生が「説明できない」としている項目も少数あり、医学科医学カリキュラム委員会へ提言を行った【資料7-1-B7、7-1-B8】。

2022年度からシラバスの書式を変更し、ディプロマポリシーの記載を必須とした【資料1-3-B1】。併せてカリキュラムポリシーの部分改訂を行った【資料7-1-Q1】。これによりカリキュラムとディプロマポリシーの関連性が明確となった。今後、医学教育カリキュラム評価等実施委員会において、現行カリキュラムがディプロマポリシーに十分に適合しているかについて更なる検討を行う予定である。

医学部ステークホルダー・ミーティングを実施した【資料1-1-B1】。また、総合診療実習病院連絡会を開催し、学外実習施設での臨床実習の実施状況や要望について意見交換した【資料6-2-B1】。医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会を実施、県内外の病院代表者と意見交換し、昨年度に続き本学の卒業生についてのアンケートへの協力依頼をした【資料1-4-Q5】。今後のカリキュラムの改訂の際には、これらの広い範囲の教育関係者からの長期的な学修成果についての意見を反映させていく予定である。

### 改善状況を示す根拠資料

- 資料 7-1-B1 4年次生コア・カリキュラム修得状況調査（B項目）理解度の推移
- 資料 7-1-B2 4年次生コア・カリキュラム修得状況調査（C-5項目）
- 資料 7-1-B3 2年次生コア・カリキュラム修得状況調査（C-1-4項目）
- 資料 7-1-B4 5・6年次生コア・カリキュラム修得状況調査（F-1項目）
- 資料 7-1-B5 1年次生準備教育モデル・コア・カリキュラム修得状況調査集計結果
- 資料 7-1-B6 2年次生準備教育モデル・コア・カリキュラム修得状況調査集計結果

- 資料 7-1-B7 医学教育モデル・コア・カリキュラム修得状況調査に基づく提言
- 資料 7-1-B8 準備教育モデル・コア・カリキュラム修得状況調査に基づく提言
- 資料 1-3-B1 令和4年度電子シラバスの作成について（依頼）
- 資料 7-1-Q1 2021年度第11回医学部教育委員会（審議事項12 医学部のカリキュラムポリシーについて）
- 資料 1-1-B1 令和3年度医学部教育改革等に関するステークホルダー・ミーティング議事要録
- 資料 6-2-B1 総合診療実習病院連絡会について
- 資料 1-4-Q5 令和3年度第2回山梨大学医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会議事要録（協議事項7 卒後臨床研修協力病院へのアンケート結果について）

## 7.2 教員と学生からのフィードバック

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための助言

- ・ 教育プログラムの過程や学修成果などに関する情報を系統的に求め、分析し、対応すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

全学で統一した形式によって行われている「学生による授業アンケート」の集計結果を、2020年度後期分、2021年度前期分について、医学教育カリキュラム評価等実施委員会において整理、取りまとめを行い、医学科医学カリキュラム委員会と医学部教育委員会へ送付した【資料7-2-B1、7-2-B2】。医学教育カリキュラム評価等実施委員会独自で実施した調査に関しては前述のとおりである。

また、臨床実習センターと医学教育カリキュラム評価等実施委員会が連携して、ACCおよび前半の臨床実習（Basic Clinical Clerkship、以下BCC）のアンケートを行った。結果は臨床実習センター運営委員会で検討した【資料7-2-B3、7-2-B4】。

#### 改善状況を示す根拠資料

- 資料7-2-B1 2020年度後期 授業アンケート回答状況
- 資料7-2-B2 2021年度前期 授業アンケート回答状況
- 資料7-2-B3 6年次生 ACC アンケート
- 資料7-2-B4 5年次生 BCC アンケート

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための示唆

- ・ 学生だけでなく教員からのフィードバックの結果を活用して、プログラムを開発することが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学科医学カリキュラム委員会、医学教育カリキュラム評価等実施委員会では学生代表を委員に含めている【資料1-4-B1、1-4-B2】。医学部長、医学科長、医学部教育委員会委員長等と学生代表者による懇談会を実施している【資料1-4-Q2】。これらにより、学生からのフィードバックが可能である。

一方、担当教員に対して診療参加型臨床実習の状況に関する調査を実施した。その結果について臨床実習運営委員会において検討し、今後の臨床実習の改善に反映させることとした【資料3-1-B1】。

アクティブラーニングの調査結果のフィードバックについては今後の検討課題である【資料2-1-B4】。

#### 改善状況を示す根拠資料

- 資料1-4-B1 2021医学科医学カリキュラム委員会委員名簿
- 資料1-4-B2 2021医学教育カリキュラム評価等実施委員会委員名簿
- 資料1-4-Q2 令和3年度医学部長等と医学部学生会との懇談会議事要録

- 資料 3-1-B1 第 44 回臨床教育部管理員会議事要旨（議題 1 基本 37 症候の経験状況結果と今後の対応について）
- 資料 2-1-B4 2021 アクティブラーニング実施状況調査依頼、前期・後期調査結果

### 7.3 学生と卒業生の実績

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 「リエゾンアカデミー研究医養成プログラム」の実績について、学生と卒業生の学会発表や論文発表の成果を分析し、プログラムの評価を実施している。

##### 改善のための助言

- ・ 使命と期待される学修成果、カリキュラム、資源の提供に関して、学生と卒業生の実績を分析すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育カリキュラム評価等実施委員会の4年次生を対象に医学教育モデル・コア・カリキュラムB項目（社会と医学・医療）の修得状況調査では、多くの項目で理解度の改善が認められた【資料7-1-B1】。

4年次生におけるC-5項目（人の行動と心理）についての調査では全般に良好な修得状況であった【資料7-1-B2】。さらに、2年次生のC-1項目～C-4項目では数項目を除き良好な修得状況であった【資料7-1-B3】。

5・6年次生のF-1項目（症候・病態からのアプローチ）の調査では、十分な経験ができていないことが明らかになった【資料7-1-B4】。そのため、各臨床科が実習で経験できる症候を提示して、学生が適切に臨床経験を積むために参照するロードマップを明示し、各診療科の到達目標・教育方略・評価の見直し、Pre-CC OSCE、Post-CC OSCEとの整合性を確立していく。

総合診療実習病院連絡会を開催し、学外実習施設での臨床実習の実施状況や要望について意見交換した【資料6-2-B1】。また、医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会において、本学の卒業生についてディプロマポリシー達成度を含むアンケート調査を実施した【資料1-1-B6、1-3-Q4】。その結果、国際性が不十分であり、リーダーシップや協調性においても改善の必要があることが示された。ただしこの結果は、本学の初期臨床研修プログラムに参加している少数の卒業生の調査結果であった。今後、本学2年目臨床研修医の教育重点施設での研修実績・評価（他職種連携、評価を含む）を活用するなど、さらに広く情報を収集できるよう検討する必要がある。

また、2021年度も継続してディプロマポリシーに定められた学修成果の達成度を評価するために、2021年度卒業生にWEBでアンケートを実施した【資料7-3-B1】。新型コロナウイルス感染症の為に卒業式等が簡略化されており回答率が低かった。今後本学医学部同窓会の協力を求めていく予定である。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料 7-1-B1 4年次生コア・カリキュラム修得状況調査（B項目）理解度の推移

資料 7-1-B2 4年次生コア・カリキュラム修得状況調査（C-5項目）

資料 7-1-B3 2年次生コア・カリキュラム修得状況調査（C-1-4項目）

資料 7-1-B4 5・6年次生コア・カリキュラム修得状況調査（F-1項目）

資料 6-2-B1 総合診療実習病院連絡会について

資料 1-1-B6 令和2年度第2回山梨大学医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会議事要録（協議事項5 卒後臨床研修協力病院へのアンケートについて）、臨床研修病院アンケート結果

資料 1-3-Q4 第42回臨床教育部管理委員会（議題1 臨床研修協力病院アンケートについて）

資料 7-3-B1 令和3年度卒業生アンケート回答のお願い、集計結果

## 質的向上のための水準

### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

### 改善のための示唆

- ・ 学生と卒業生の実績を分析し、その結果をそれぞれ責任のある委員会へフィードバックすることが望まれる。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学科生を対象に、医学教育モデル・コア・カリキュラムの修得状況の調査を継続的に行っている。前述のとおり、B項目（社会と医学・医療）の修得状況調査の結果を医学科医学カリキュラム委員会にフィードバックした【資料 7-1-B1、7-1-B7】。その結果、本年度の調査では、多くの項目で理解度の改善が認められた。また、準備教育モデル・コア・カリキュラムの修得状況について、入学時と準備教育終了時（2年次7月）の比較を行った。この結果についても、医学科医学カリキュラム委員会にフィードバックしている【資料 7-1-B6、7-1-B8】。

前述のとおり医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会において卒業生の実績を分析しているが、今後さらに卒後臨床研修病院、同窓会、医学部ステークホルダー・ミーティングなどで得られた情報を医学部教育委員会、医学教育カリキュラム評価等実施委員会、医学科医学カリキュラム委員会、臨床実習検討委員会、入学者選抜方法検討委員会、修学指導委員会などにフィードバックしていく。

入学時成績とその後の実績との関連性については、今後IRを活用して検討していく予定である。

### 改善状況を示す根拠資料

- 資料 7-1-B1 4年次生コア・カリキュラム修得状況調査（B項目）理解度の推移
- 資料 7-1-B7 医学教育モデル・コア・カリキュラム修得状況調査に基づく提言
- 資料 7-1-B6 2年次生準備教育モデル・コア・カリキュラム修得状況調査集計結果
- 資料 7-1-B8 準備教育モデル・コア・カリキュラム修得状況調査に基づく提言



## 7.4 教育の関係者の関与

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための示唆

- ・ 他の医療職、患者、公共ならびに地域医療の代表者など、他の関連する教育の関係者に、卒業生の実績やカリキュラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学部ステークホルダー・ミーティングの開催をし、社会の様々な立場の方から本学卒業生の実績やカリキュラムについて意見交換した【資料1-1-B1】。今後継続的に開催し卒業生の実績をカリキュラムにフィードバックしていく。

早期臨床体験実習（ECE）や救急用自動車同乗実習において他職種からの評価を受けているが、2021年度は新型コロナウイルス感染症のため実施できなかったため、2022年度での再開を予定している【資料2-5-B1】。

医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会において、本学2年目臨床研修医の教育重点施設での研修実績・評価（他職種連携、評価を含む）について審議した【資料7-4-Q1】。また、山梨県内および県外の病院の臨床研修管理委員が参加する医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会においても、本学の卒後臨床研修プログラムの実施状況について意見交換した【資料7-4-Q2】。これらの意見を今後のカリキュラム改訂にフィードバックしていく。

#### 改善状況を示す根拠資料

- 資料 1-1-B1 令和3年度医学部教育改革等に関するステークホルダー・ミーティング議事要録
- 資料 2-5-B1 令和3年度第4回医学部教育委員会議事録（報告事項4 ECE実習の中止について）、救急用自動車同乗実習中止揭示文
- 資料 7-4-Q1 令和3年度第2回山梨大学医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会議事要録（協議事項1 本院卒後臨床研修プログラム研修医の修了判定について）
- 資料 7-4-Q2 令和3年度第1回山梨大学医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会議事要録（協議事項② 令和4年度本院卒後臨床研修プログラムについて）

## 8. 統轄および管理運営

領域8における「改善のための示唆」を受け、医学部長、教育関連の各委員会が主導して継続的な取り組みを行っている。教学のリーダーシップの評価については、医学部教授会において実施されているが、2021年度から始まった医学部ステークホルダー・ミーティングを継続的に開催し、学外からの評価も受ける予定である。また、医学部運営会議の役割を見直すことにしている。

### 8.2 教学のリーダーシップ

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

##### 改善のための示唆

- ・ 医学部の使命と学修成果に照合して行うリーダーシップの評価を構築することが望まれる。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学部長が医学部教授会において2021年度に取り組んだ項目について報告を行い、評価を受けた【資料8-2-Q1】。

医学部ステークホルダー・ミーティングを開催し、幅広い領域の医学部関係者との意見交換を行って本学の医学教育の概略評価を受けた。今後も定期的に行うことで教学リーダーシップについても評価を受ける予定である【資料1-1-B1】。

##### 改善状況を示す根拠資料

資料8-2-Q1 第255回医学部教授会議事録（審議事項6 2021年度医学部の目標について）

資料1-1-B1 令和3年度医学部教育改革等に関するステークホルダー・ミーティング議事要録

## 9. 継続的改良

領域9における「改善のための助言」を受け、医学部教育委員会、医学教育カリキュラム評価等実施委員会、医学科医学カリキュラム委員会等の教育関連委員会が活動している。さらに、2021年度には新たに修学指導委員会を設置した。今後、若手教員が参画して本学医学部のあり方について検討していく予定である。

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

#### 改善のための助言

- ・ 教育（プログラム）の過程、構造、内容、学修成果/コンピテンシー、詳細ならびに学修環境の評価方法を確立し、自己点検評価結果に基づいた教育改善を確実に実施すべきである。
- ・ 自己点検評価報告書における「C. 現状への対応」と「D. 改善に向けた計画」を再考して具体的な計画を立案し、継続的改良に結び付けるべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

既存の委員会の見直しを行い、新たに修学指導委員会を設置した。医学教育カリキュラム評価等実施委員会や教学IR部門を通じて得られた結果を各委員会へフィードバックし、継続的な教育改善を進めていく。

医学部長を中心に本学医学部のあり方を検討する若手教員を中心とした委員会を2022年度に整備し、また教学のリーダーシップを執る執行部会を設置する予定である。これらを通じて具体的な計画を立案していく。

#### 改善状況を示す根拠資料

- なし